



退官によせて：有難うさん

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 吉田, 昭穂 メールアドレス: 所属:
URL	https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9154

退官によせて

有 難 う さ ん

吉 田 昭 穂

のびしげる マロニエ^{さみどり}早緑に

白き房花も いま盛りなり

(新村 出)

駅前通り（西5丁目）カトリック教会前に、街路樹として市民に親しまれているマロニエ（セイヨウトチノキ）がある。

ドイツのエルフルト出身のエマヌエル神父のエピソードを今に伝える樹木でもある。この木の調査研究にかけた二十数年、思い出は尽きない。

四月下旬、樹脂に覆われた冬芽^{ほころ}が綻びはじめ、五月下旬にはシャンデリアを想起させる豪華^{ごうかけんらん}絢爛な花を着ける。そして七月中旬から八月上旬にかけては盛夏の汗を和らげてくれる日影をつくり、九月中旬にはコンペイトウのような鋭い角をつけた直径数cmの果実を稔らせ、十月中旬にはその果実が裂けて栗状の種子が路上に散乱、黄化した葉も徐々に落ちて、また、冬芽に樹脂があらわれる。これがマロニエの一年間の生育概要である。

へめでためでの 若松さまよ

枝も栄えて 葉もしげる

尺八、三味線、太鼓を教室に持ち込み、民謡仲間の協力を得て教養の「音楽B」を開講したのが昭和54年、以来13年よくも続いたものである。学生はどのように受け止めたであろうか？ ともあれ、私にとっては精神的な支えとなった思い出の歲月であった。

一月下旬にある新聞社から「随想」の依頼があった。テーマをなんとしようかと色々と迷ったが、結局「二足の草鞋^{わらじ}」とすることにした。作物や花卉^{かき}園芸の分野、そして僻地教育で「心のふれあい」の大切さを教えられて民謡に首を突っ込み、のめり込んでしまった三十数年、まさに「二足の草鞋」を履いたままでゴールインと相成った。

顧みれば39年、この間、温かく見守り育ててくれました教官、職員各位、学生諸君のお陰と衷心より感謝を捧げ、併せ本分校の発展隆盛を祈念する次第である。

(本分校 技術研究室)